



## 家族っていいな♡

コロナ禍で何をすることも不自由な思いをしている今、おうち時間も増えたご家庭も多いと思います。今できることをコツコツとすすめていく良い機会かもしれませんね。家族みんなで、絵本や本を楽しむのもよいのではありませんか！今月は家族をテーマに絵本を集めてみました。

### ★家族の一週間★



『スモールさんはおとうさん』 ロイス・レンスキー：作 わたなべしげお：訳  
童話館出版

スモールさん一家、両親と子ども3人に子犬が一匹の家族の一週間が描かれた作品です。家事をお母さんだけがするのではなく、おとうさん、子どもたちが助け合い、支え合いながら暮らしているほのぼのとした家族のお話です。

### ★お母さんの本音かな～★



『おかあさんはね』 エイミー・クラウス・ローゼンタール：文

トム・リヒテンヘルド：絵 高橋久美子：訳 マイクロマガジン社

きっと、子どもたちを授かった時、こう思っていたらなあ～って懐かしく思う年になってきました……。いつまでもこの作品の言葉をかみしめながら、日々を過ごさなくちゃと反省しきりの私です。そう、いっぱい愛情が詰まった言葉がページを繰るたびに登場します。

### ★家族の数が多いですが・・・★



『ペニーさん』 マリー・ホール・エッツ：作・絵 松岡享子：訳 徳間書店

表紙の絵がペニーさんです。年を取った貧乏なおじいさんなのですが、とても朗らかな笑顔でしょう。毎日、工場で働いていますが、お給料は家族の食べ物を買うと全部なくなってしまいます。だって、大家族なんですから。大家族の動物たちが、事件を起こして、大ピンチに。しかし、動物家族が一致団結して見事にめでたしめでたしとなりますが、それは読んでのお楽しみ。この作品のお話は長いので、幼い子は絵を見て楽しんでいただき、お話を楽しんでいただけるのは小学生低学年位からだと思います。シリーズに『ペニーさんと動物家族』『ペニーさんのサーカス』があります。